

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成25年10月17日 (2013.10.17)

【公開番号】特開2013-173780(P2013-173780A)

【公開日】平成25年9月5日 (2013.9.5)

【年通号数】公開・登録公報2013-048

【出願番号】特願2013-97360(P2013-97360)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/73 (2006.01)

A 6 1 K 8/02 (2006.01)

A 6 1 K 9/19 (2006.01)

A 6 1 K 47/36 (2006.01)

A 6 1 Q 5/00 (2006.01)

A 6 1 Q 19/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/73

A 6 1 K 8/02

A 6 1 K 9/19

A 6 1 K 47/36

A 6 1 Q 5/00

A 6 1 Q 19/00

【手続補正書】

【提出日】平成25年7月31日 (2013.7.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

プロテインではない一の骨格形成剤と、
 任意的に添加された一以上の活性物質と、
 任意的に添加された一以上の補助物質であって、界面活性剤、分散剤、乳化剤、pH値調整剤、共存溶媒、染料、防腐剤及びスクアランよりなる群から選択される一以上の補助物質と、
 を含む、身体表面に適用するフリーズドライされた一定形状の形成物であって、
 前記形成物は、直径が少なくとも 5 mm の球形の幾何形状を有し、かつ前記形成物を水で湿らせ、または一以上の活性物質及び / 又は一以上の補助物質を含む水溶液で湿らせると、溶液又はゲルとなると、前記形成物の溶解速度が、Pharm EU に基づく実験機器を用いて「錠剤及びカプセルの分解時間」を計測する方法で計測すると、4 分未満である、
 ことを特徴とするフリーズドライされた一定形状の形成物。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のフリーズドライされた一定形状の形成物であって、
 前記形成物は、 $0.01 \text{ g / cm}^3 \sim 0.8 \text{ g / cm}^3$ の密度を有する、
 ことを特徴とするフリーズドライされた一定形状の形成物。

【請求項 3】

請求項 1 に記載のフリーズドライされた一定形状の形成物であって、
 前記骨格形成剤は、低粘度の骨格形成剤であり、前記低粘度の骨格形成剤の 1 重量 % 水

溶液又は懸濁液の粘度が20及びpH値6～8において2000 mPa・s未満である、
ことを特徴とするフリーズドライされた一定形状の形成物。

【請求項4】

請求項1に記載のフリーズドライされた一定形状の形成物であって、

前記骨格形成剤は、カルシウム含有量が3wt%未満のナトリウムアルギナート、天然又は変性スターチ、ポリアクリル酸、ポリメタクリル酸、ポリメタクリレート、合成セルロース誘導体及びセルロースエーテルよりなる群から選択される少なくとも部分的に水溶性の天然多糖類又は合成ポリマーである、

ことを特徴とするフリーズドライされた一定形状の形成物。

【請求項5】

請求項1に記載のフリーズドライされた一定形状の形成物であって、

前記形成物は、一以上の医薬用又は美容用活性物質を含み、前記一以上の医薬用又は美容用活性物質は、皮膚用身体表面適用剤、抗バクテリア剤、抗炎症活性物質、止痒活性物質、麻酔活性物質、神経皮膚炎又はアトピー性皮膚炎の治療剤、皮膚美白剤、ビタミン、酸化防止剤、刺激防止剤、美的用途に適した油、グリセリン及び尿素よりなる群から選択される皮膚病治療剤を含む、

ことを特徴とするフリーズドライされた一定形状の形成物。

【請求項6】

請求項1ないし5のいずれかに記載のフリーズドライされた一定形状の形成物を調製する方法であって、プロテインではないの骨格形成剤と、任意的に添加された一以上の活性物質と、同じく任意的に添加された一以上の補助物質とを含み、直径が少なくとも5 mmの球状の幾何形状である凝固溶液または懸濁液をフリーズドライ処理する工程を備える、

ことを特徴とする形成物を調製する方法。

【請求項7】

請求項6に記載のフリーズドライされた一定形状の形成物を調製する方法において、前記方法が、

(a) プロテインではないの骨格形成剤と、任意的に添加された一以上の活性物質と、同じく任意的に添加された一以上の補助物質と、を含む溶液又は懸濁液を作製するステップと、

(b) 直径が少なくとも5 mmの球状の幾何形状に対応した形の空洞を有する鋳型に前記溶液を注入するステップと、

(c) 前記鋳型中の溶液を凝固させるステップと、

(d) 前記凝固溶液をフリーズドライ処理して、直径が少なくとも5 mmの球状の幾何形状を有するフリーズドライされた一定形状の形成物を形成するステップと、

を備える、

ことを特徴とする形成物を調製する方法。

【請求項8】

請求項7に記載のフリーズドライされた一定形状の形成物を調製する方法において、

前記ステップ(a)における前記骨格形成剤の濃度が、前記溶液の全体量に対して0.1wt%～20wt%である、

ことを特徴とする形成物を調製する方法。